

貫通石

トンネル工事の貫通点で記念に採取した石です。貫通石の由来は、「その昔、神功皇后（第十四代中哀天皇の皇后）が三韓出兵のおり、彼の地に於いて敵をいくら攻撃しても効果があがらないときに、ふと脇道に空洞をみつけ、三日三夜不眠で掘り続けた甲斐あってその空洞を突き貫いて、敵の背後から攻め大勝を得たという。その記念に貫通点の石を持ち帰ったところ、産気づき記念の石を枕元に置いていたら、とても元気な男子（第十五代応神天皇）を無事に出産することができた」という古い言い伝えに因み、安産の御守として珍重されてきました。最近では最後の貫通点の石として、「難関突破」「初志貫徹」の意味合いから合格祈願や結婚記念に人気があります。

なお、この貫通石は当地で学問の神様として知られている菅原天満宮（島根県松江市区道町上来待）において、弊社社員が受験生の皆様に成り代わり御被いを受けたものです。

山陰自動車道斐川～出雲間・大津トンネルの概要

山陰自動車道斐川～出雲間は、既に開通した斐川ICから西側へ延伸し出雲市知井宮町の出雲IC（仮称）に至る一三・六kmの高速自動車国道です。

大津トンネルは、斐川～出雲間のほぼ中心に位置し、出雲市船津町から標高二〇〇m程度の山地を貫き出雲市朝山町に至る延長一・九六一mのトンネルです。地質は、主に石英安山岩で発破掘削により施工を行いました。

当トンネルは、平成十七年八月に朝山町側から坑口付けを行い約三〇ヶ月を要し貫通に至りました。

この貫通石は、船津町側の貫通点で採取したものであり地質は玄武岩です。